

「子どもを守る」緊急市民大会開催



市 PTA 連合会代表
やすだ こう
副会長 安田 公

命は有限であり、その時その時を大切に生きる。自分の命も他人の命も全てを大切にする。そのような命に対する感性を、大人である私たちが磨き、子どもたちに対し「生きているということは、本当にありがたいこと」だと、伝えていくことが大事。

心の底から相談できる大人の存在を分かってもらいたい。



高等学校生徒代表
きな ゆう
前原高校 喜納 優

自分たちが命の大切さや、人を思いやるということを考えていかなければならない。

誰でも好きな人、嫌いな人はいると思う。だからと言って、いじめによって人権を犯すことはあってはならない。一人ひとり幸せになる権利がある。ひとつしかない命を思いやり、大切にすることが必要である。



中学校生徒代表
もり ななせ
高江洲中 森 菜々瀬

良いことも悪いことも、一人の力が集団になれば、とても大きな力に変わる。一人ひとりが勇気を出して、間違っていることは、間違いだとはっきり言えるようにしたい。自分に何ができるかを考えられる人になりたい。

人を思いやる心、何よりも今の自分、これからの自分を大切に思う心を持つことが大切。

2009年11月、うるま市内の中学生による集団暴行事件が立て続けに発生し、一人の尊い命が失われました。

中学生という少年少女がかかわった事件としては、あまりにも重く、とても悲しい事件として、市内外に大きな衝撃を与えました。同じ地域に住む子どもたちが、このような事件の被害者と加害者になったことについて、大人である私たちは、この問題を正面から受け止めなければなりません。

「青少年の健全育成は大人の責任である」ことを自覚し、子どもたちを救うために、一人ひとりが全力で取り組んでいかなければなりません。

12月13日「子どもを守る」緊急市民大会が市民芸術劇場で開催され、市民ら約1350人が参加しました。各団体の代表者による意見発表が行われ、市民全体で再発防止に全力で取り組むことを確認しました。



市校長会代表
おおしろ せいじん
石川中校長 大城 盛仁

学校現場の多忙感、就職難、核家族化、携帯電話の急激な普及等、子どもたちを非行へと絡めとる網の目が複雑にからんでいる。その網の上で多くの生徒がもがいている。その網の目を一つでも解いてほしい。

大人のほんの少しの思いやりで、子どもたちは、無限に輝きます。



市自治会長代表
やしき ひでのぶ
西原自治会長 屋宜 秀信

大人が忙しすぎて、子どもたちに目を向けられていない。本気でわが子と向き合ってみてほしい。そして、地域の公民館を訪ねて、なんでも相談してほしい。地域は必ず力になります。

また、学校の先生たちにゆとりを持たせ、もっと、子どもに向き合える体制を整えることが必要。



市青年連合会代表
きんじょう こうじ
会長 金城 孝司

人の痛みを自分の痛みとして感じられない世の中になりつつある。事件の背景の一つに、子どもたちの行動に対して地域社会の無関心があったのではないと思う。

学校、家庭だけに責任を押し付けるのではなく、学校、家庭、地域がどのように協力し、子どもを見守るかを考える必要がある。

